

# 三菱重工業（7011）企業分析レポート

## 【直近5年の業績推移】

決算期	売上高（百万円）	営業益（百万円）	経常益（百万円）	EPS（円）	配当金（円）	寸評
2022.03	3,860,283		173,684	33		回復基調
2023.03	4,202,797		191,126	38		增收増益
2024.03	4,657,147		315,187	66		伸長加速
2025.03	5,027,176		374,531	73		最高益級
2026.03（予）	4,800,000		370,000	68		反動減

## 【財務・キャッシュフロー概要】

決算期	営業CF（百万円）	投資CF（百万円）	財務CF（百万円）	現金残高（百万円）	自己資本比率（%）
2023.03	80,888	-45,575	-18,902	347,663	31
2024.03	331,186	-131,048	-158,903	431,287	35
2025.03	530,459	-187,714	-114,123	657,816	35

【財務コメント】営業CFは拡大基調で、投資CFはマイナスが続くが、現金残高は増加している。自己資本比率は30%台で改善傾向にあり、財務体質は安定化に向かっている。

## 【会社概要】

三菱重工業は総合重機メーカーであり、エネルギー、航空・宇宙、防衛、交通・物流、産業機械など幅広い分野で事業を展開する。国策領域との親和性が高く、受注型ビジネスを基盤に長期案件の積み上げを特徴とする。

## 【歴史】

明治期に源流を持ち、日本の重工業を代表する企業として発展してきた。造船・重機から始まり、航空機、発電設備、防衛関連へ領域を広げた。近年はエネルギー転換と安全保障需要の高まりを背景に、重点事業の選別と採算改善を進めている。

## 【立ち位置】

機械セクターの中でも、防衛・宇宙とエネルギーという政策・地政学の影響を受けやすい領域に強い。大型案件の採算管理が鍵となる一方、受注残の積み上げが業績の先行指標となりやすい立ち位置にある。

## 【見解】

中長期的には、防衛需要の拡大とエネルギー転換関連の投資を追い風に、受注残の積み上げを通じた成長が期待できる企業である。一方で、大型案件の採算や進捗遅延、景気・為替の変動により利益が振れやすく、業績の変動が株価に直結しやすい点には注意が必要である。

【株価・市場情報】(2026年1月9日)					
株価(終値・円)	PER(倍)	PBR(倍)	配当利回り(%)	信用倍率(倍)	時価総額(億円)
4,267	62	5	0		140,000

【同業他社比較】					
銘柄名	株価(円)	PER(倍)	PBR(倍)	時価総額(億円)	特徴
IHI	3235	27	6	35,000	航空エンジン首位、重工多角
三井E&S	6470	25	3	6,670	船舶ディーゼル首位、港湾物流が両輪
コマツ	5187	14	1	48,300	建機最大手、ICT化に強み
荏原	4410	27	4	20,400	ポンプ総合、環境・半導体装置も
ナブテスコ	3899	30	1	4,603	減速機・自動ドア・鉄道ブレーキ

【投資成功シナリオ】  
防衛・宇宙で受注が継続し、エネルギー関連でも大型案件の採算が安定する。受注残が拡大し、営業CFが増加して投資と還元の両立が進むことで、市場評価が継続的に切り上がる展開。

【投資失敗シナリオ】  
大型案件で採算悪化や遅延が発生し、利益が想定を下回る。景気後退や為替の逆風で受注環境が悪化すると、成長期待が剥落し株価が調整する展開。

【メモ】  
2026.03予は減収見込み。注目は防衛・宇宙の受注動向と大型案件の採算。次は受注残の内訳とセグメント別利益率の推移を確認したい。